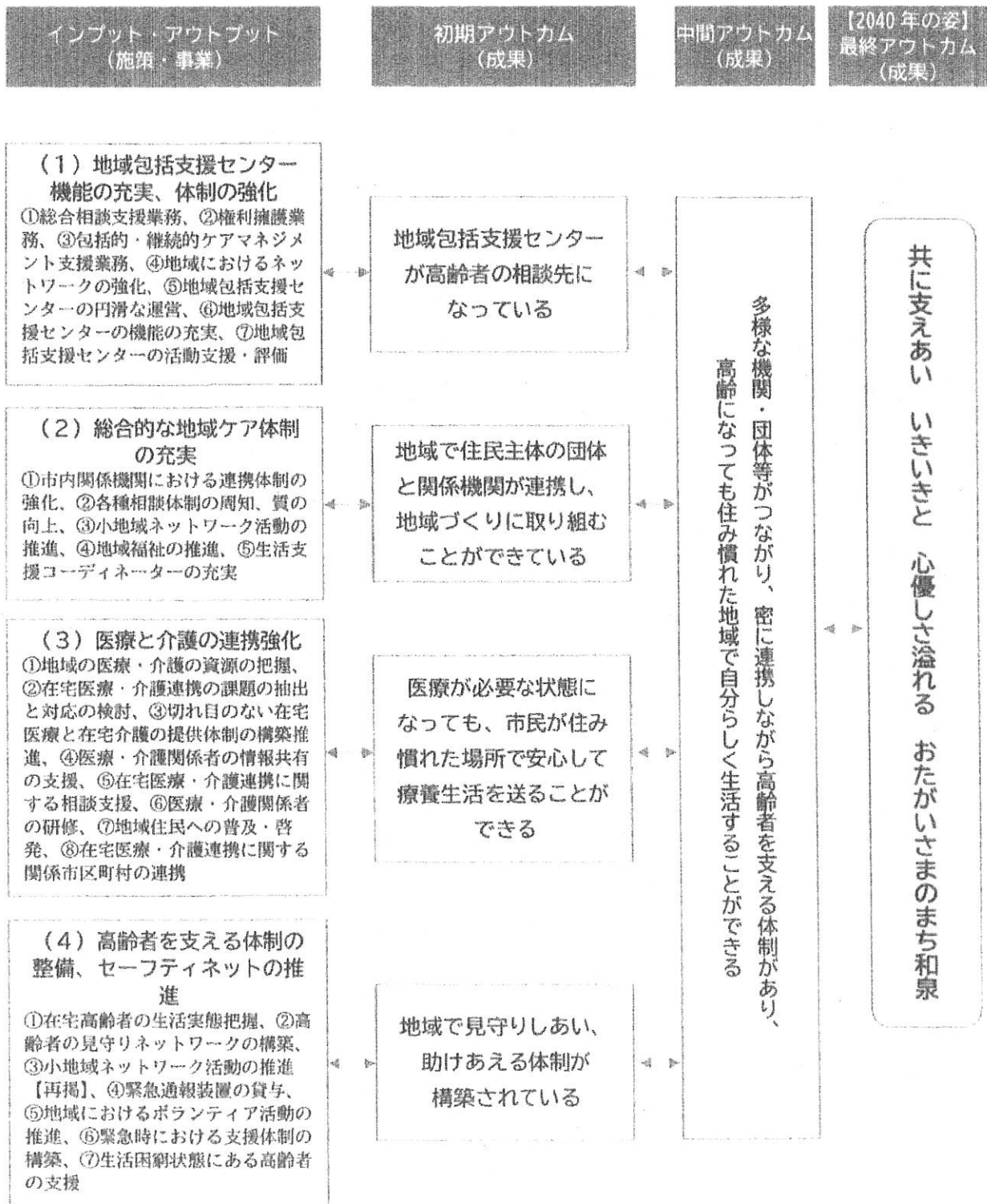


基本目標3 地域におけるネットワークの構築

基本目標3におけるロジックモデル



	自助 自分で何かをすること 自らの身を自分で守ること	共助 みんなで助けあう 支えあうこと	公助 行政の責任で実施すること
地域包括支援センター 機能の充実、体制の強化	○地域包括支援センターに行 って相談してみよう。	○支援を必要とする人を地域 包括支援センターにつなぎ ましょう。 ○地域包括支援センターから の情報提供の場をつくりま しょう。 ○地域団体が情報を共有しま しょう。	○地域包括支援センターの機 能を周知する。 ○協議しながら、負担軽減に取 り組む。 ○情報を共有し、ともに高齢者 を支える。
総合的な地域ケア体制の充実	○和泉市の状況を知ってみま しょう。 ○地域ケア会議に協力してみ ましょう。 ○いざというときのために、まち の相談機関を知りましょう。 ○近所の人と仲良くなりまし ょう。 ○地域のサロンに行ってみま しょう。 ○おたがいさまサポーターと して活動してみよう。	○ほかの団体、関係機関などと 話す機会をつくり、連携を強 化しましょう。 ○相談窓口などの情報を収集 し、周知しましょう。 ○小地域ネットワーク活動を さらに発展しましょう。 ○様々な活動のバックアップ に取り組みましょう。	○団体や関係機関が集い、協議 できる場・機会を設ける。 ○各種窓口の情報を広く発信 する。 ○地域や団体等の活動を支援 する。 ○地域資源や情報等の発信・共 有の仕組みをつくる。
医療と介護の連携強化	○医療機関、介護事業所を知り ましょう。 ○人生会議（ACP）について 考えてみましょう。 ○医療介護の困り事を抱え込 まず、専門職に相談しまし ょう。 ○講座・フォーラムに参加して みましょう。	○地域出張型在宅医療介護セ ミナーを活用し、地域で開催 しましょう。 ○医療機関、介護事業所を知り ましょう。紹介しましょう。 ○医療・介護の関係者が様々な 機会に話をしましょう。 ○連携ツールを活用し、情報の 共有と必要な支援につなげ ましょう。	○在宅医療介護相談支援セン ターについて周知する。 ○医療・介護の関係者が集い、 情報を共有できる場・研修の 機会をつくる。 ○連携に必要な支援・ツールを 作成する。 ○医療と介護について、広く市 民に情報を発信する。
高齢者を支える体制の構築 （セーフティネットの構築）	○ひとり暮らし高齢者を見守 りましょう。 ○見守られ上手になりましょう。 ○サロンに行ってみよう。 ○ボランティアの講座に参加 してみよう。 ○急な災害時に対応できるよ うに、個別支援計画を作成し ましょう。 ○生活に困ったら、相談してみ よう。	○支援を必要とする人を把握 し、見守りましょう。必要な 支援につなぎましょう。 ○高齢者見守り協力事業所に 登録しましょう。 ○小地域ネットワーク活動を さらに発展しましょう。 ○様々な活動のバックアップ に取り組みましょう。 ○地域・団体活動に参加を呼び かけましょう。	○各種地域活動を支援する。 ○高齢者の実態を把握し、より よい支援体制を構築する。 ○助けあい、ボランティアなど の講座等を開催する。 ○災害時に迅速に対応できる 体制を構築する。 ○生活困窮者を必要な支援に つなぐ。

※上記の「自助」「共助」「公助」は一例です。ご自身でできること（「自助」「共助」）から取り組んでみましょう！

(3) 医療と介護の連携強化

- 「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」を平成 25 年 4 月に制定し、「市民が生涯にわたって住み慣れた場所で自分らしく安心して暮らすことができる安心・安全のまち和泉」をめざしています。

- アンケート調査で要介護者に現在抱えている傷病を尋ねたところ、約 9 割の人が何らかの傷病を抱えており、最も多いのは認知症となっています。また、医療介護について相談できる機関を尋ねたところ、未認定者は「病院・診療所」、要支援者・要介護者は「介護関係の事業所」が最も多くなっており、「ない」は未認定者で約 3 割となっていますが、要支援者・要介護者は数パーセントにとどまっています。

- 医療と介護の連携を図るため、医療機関や介護サービス事業所の情報を日々更新し、情報の共有を図っています。また、和泉市内に新規開業した医療機関・介護事業所向けの「和泉の医療介護連携資源、ツール、ルール等についての説明ガイド、説明プログラム（わかばセット）」を整備し、紹介・説明を行っています。

- 「和泉市医療と介護の連携推進審議会」及び専門部会等において、現状把握と課題抽出、対応策検討等を行っており、今後も在宅医療介護連携について協議を重ねていく必要があります。
- 在宅医療介護連携推進コーディネーターによる相談事業やコーディネーター会議、歯科ケアステーション相談事業など、在宅医療・介護連携に関する相談支援を行っており、今後も広く周知していく必要があります。そのほか、地域住民に対して出張型在宅医療介護セミナーや市民フォーラムなどを開催し、在宅医療に関する周知・啓発を行っています。
- 今後、医療・介護の複合的ニーズを有する慢性疾患等の高齢者が増えることから、医療・介護のさらなる連携強化に取り組む必要があります。

<初期アウトカム>

医療が必要な状態になっても、市民が住み慣れた場所で安心して療養生活を送ることができる

現在抱えている傷病 単位：％

選択肢	要介護者	
	前回	今回
なんらかの傷病あり	91.4	93.6
なし	2.3	3.4
わからない	1.8	0.5
不明・無回答	4.5	2.5
回答者数(n)	488	595

医療や介護について相談できる機関 単位：％

選択肢	未認定者		要支援者		要介護者	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
病院・診療所	48.8	48.8	45.6	50.8	47.1	42.3
歯科医院	7.2	6.6	4.8	7.4	2.9	4.7
薬局	3.0	2.9	3.0	4.9	1.2	3.9
介護関係の事業所	12.6	12.6	62.9	67.0	77.9	78.8
地域包括支援センター	10.6	11.6	20.9	18.3	13.9	16.5
市役所	17.6	12.9	7.8	7.2	15.8	13.3
訪問看護ステーション	2.4	1.8	6.7	7.3	10.2	13.9
ない	9.9	28.4	6.6	4.9	3.3	4.4
不明・無回答	3.5	5.1	6.6	3.8	8.2	5.7
回答者数(n)	705	767	669	739	488	595

<重点取り組み>

医療や介護に携わる関係機関・事業所の連携強化に向け、様々な場や機会を活用した周知・啓発、協議の場を設けていきます。

<評価指標>

高齢者が医療や介護について相談できるところが増える、また医療関係者と連携ができているケアマネジャーの増加を評価指標とします。

		実績 (第8期)	目標 (第9期)
医療や介護について相談できる機関が「ない」と答える人の減少・維持【アンケート】	未認定者	29.9%	27.0%
	要支援者	4.9%	2.0%
	要介護者	4.4%	2.0%
医療関係者と連携ができているケアマネジャーの増加【アンケート】	病院	66.9%	70.0%
	診療所	58.5%	60.0%
	歯科診療所	37.3%	40.0%
	調剤薬局	47.5%	50.0%
	訪問看護ステーション	88.1%	90.0%

<活動指標>

		令和5年度 (見込み)	令和6年度	令和7年度	令和8年度
在宅医療介護コーディネーターの相談対応件数	相談件数	70 件	80 件	90 件	100 件
地域出張型在宅医療介護セミナー受講者数	受講者数	1,056 人	1,150 人	1,250 人	1,350 人
多職種による会議・研修（審議会・専門部会・研修）の開催数	開催回数	13 回	13 回	14 回	15 回

<主な事業>

名称	内容
①地域の医療・介護の資源の把握	○ 市民が医療機関や介護事業所を選択する際の情報収集の助けとなる「医療・介護マップ」を作成します。また、今後も、医療と介護の専門職がより円滑な連携を図るために必要な情報をとりまとめ、関係者間で共有します。 ○ 市民及び関係者が、必要な情報を選択し、連絡できるような環境整備を検討するとともに、さらなる医療・介護の資源の把握に努めます。
②在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応の検討	○ 和泉市医療と介護の連携推進審議会及び下部組織の専門部会において、在宅医療・介護連携の現状把握と課題抽出を行い、必要な施策の企画立案を行います。
③切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	○ 入退院連携システムの構築・急性期病院との検討会議など和泉市医師会をはじめ、各関係機関と研修やワーキング等を通じて連携を図っていきます。 ○ 急な病状変化や、ひとり暮らし世帯の増加を踏まえ、地域の医療・介護関係者の協力を得て、切れ目なく在宅医療と在宅介護が一体的に提供される体制を整備することで、安心して在宅生活を送れるまちづくりを推進します。 ○ 災害時などの有事の際に「和泉市訪問看護ささえあいネットワーク」を効果的に運用していきます。
④医療・介護関係者の情報共有の支援	○ 課題別プロジェクト及び医療介護連携推進コーディネーターとの連携等により、把握している医療・介護の資源の情報の共有を行っています。把握した情報を活用する対象者の類型ごとに提供する内容を検討し、必要時に市民及び関係者が選択・連絡できるような環境整備を整えていきます。
⑤在宅医療・介護連携に関する相談支援	○ 医療介護連携推進コーディネーターを中心に、地域包括支援センターと連携を図りながら、在宅医療・介護に関する相談・連携調整・情報提供等の機能を確保しつつ、支援に努めます。
⑥医療・介護関係者の研修	○ 地域の医療・介護関係者の連携を深化し、質が高く切れ目のない医療と介護のサービスを受けられるよう、多職種の相互理解を促す研修を開催します。
⑦地域住民への普及・啓発	○ 自分の人生を主体的に生きるために、在宅医療や介護に関する制度やサービスについて、わかりやすく情報提供できるよう、各種リーフレット、ホームページなどによる普及・啓発とともに、地域出張型在宅医療介護セミナーや市民フォーラムなどを開催します。 ○ 人生会議（ＡＣＰ）をはじめ、「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」などの普及・啓発に努め、本人の選択と本人・家族の心構えの意識づくりに努めます。
⑧在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	○ 和泉市以外の市町村に所在する病院に入退院する市民に対しても、切れ目のない医療と介護を提供できるよう、大阪府や保健所等の支援のもと、複数市町村が連携して広域連携が必要な事項について協議し、連携体制の構築に努めます。 ○ 保健所との連携や泉州二次医療圏を中心とした検討会議等へ参画し、連携を図ります。

